明治廿八年二月廿八日印刷
明治廿八年三月一日發行

婦人衛生雜誌

第六拾四號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第六拾四號
目次

講演

●日本婦人運動の話しに就て（前號の續）　ドクトル　入澤達吉君

●浴湯の話（前々號の續）　宮本仲君

●首下り病取調報告（前々號の續）

衛生叢談

●漢法醫復活案●日本兵の耐寒力●凍傷者の實況●世界有名の義足師●第一軍の衛生近情●無病長壽の法●軍中パンと米食の利害●間食の弊●戰爭後の衛生●インキと火傷●負傷兵の繃帶●軍隊糧食發明●赤痢●赤十字社病院の救護●凍死●聾と消化器病●天然痘發生の通知●流行感冒●婦人衛生會講演●大日本婦人衛生會々況●役員の御招待●廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第六拾參號
目次

講演

●新年の祝詞　宮本仲君

●日本婦人運動の話しに就て　ドクトル　入澤達吉君

衛生叢談

●露國軍醫の歎賞

●結核含有の牛乳病毒の試驗

●防寒實驗談

廣告數件

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第六拾四號
（明治二十八年三月一日發行）

講演

●日本婦人運動の話しに就て

（前號の續き）

醫學士　入澤達吉君演說

是れが運動の治療上に必要なる所以で有ります。斯くの如く運動は人体に缺くべからざるもので有ると知りながら、倘ほ且つ實際に行ふ事能はざるは前申す障碍が有る爲め、是れを實際に行ふ事が出來んので有らうと思ひます。デ物と云ふものは其處に居らぬと　却て妙な考への起るもので　私は、以前彼方に居ります時分、其狀態を目擊して居ると、先入は腦の中に領分を占めて外の考へはなく、其事ばかりを多く考へて居りました。凡そ何事でも其局を去つて傍らから觀察すると、却て利益を得るもので有ります。私も彼方に居ります時分少しく飛離れた考ではあるが、日本に歸ッた上は、男子の爲めに一つと、女子の爲めに一つの体操場を設けて平生体操を奬勵したならば必ず好結果を得るに違ひないと主張したがりの時は今日の場合では言ふべくして行ふべからざる說と云ふ事であつて、唯私の考へを述べたばかりであつたが、今日に至ッて種々觀察をすると、若し其事が、ドウか云ふ方法に依ッて、出來るならば實行致したいと思ひます。且つ又益々其必要を感じます。日本の男子の体格は、西洋人に比して惡い多くの人種の中でも日本人程に丈の低い人種は世

界中に無いので、北氷洋のイスキモー人種は格別其外に日本人程に身長の短いものは有りませぬ。先づ身長から申しますれば支那人朝鮮人、琉球人すら日本人より体格が宜しい。近頃參りました捕虜なども、日本人よりは体格が好いと云ふことで有ります。ソレから日本の兵隊の中には隨分体格の好いものがあるが清國の兵隊は日本の兵隊よりは、一層體格の好いものばかりであると云ふことで有ります。是れは私が實際觀ましたのではなく、戰地よりの又聽きを又々御話したので有るが、新聞なぞで見た處でも、日本人より支那人の体格の方が勝ッて居る樣であります。私が西洋に參ります時に上海の港内に二日程居りました其間私は支那人の食物及び生活の情況を看たいと思ッて上陸ッて往きました。其時私の目に觸れた支那人は、何れも下等の人で有りましたが、日本人より体格は宜い樣に見受けました。其他朝鮮人なぞにも二三人出逢ひましたが、大概は日本人より勝ッて居る樣に思ひました。

何故他の人種に比して日本人の身長が短いかと云へば實は此事に就ては私なども若し出來るなれば充分に取調べたいと思ッて居りますが、或人の說に日本人は坐るのが弊害だらうと云ふ事を申しましたが、或はサウかも知れない……少し疑はしい點も有るが、併し私なども此說を半は信じて居ります。日本人は他の人種と比較すると、胴の長さは左程違はぬが、唯西洋人より足が短いです。ソレが或は坐する爲めでは無いかと思ふけれども今日は運動の事を深く申上げなければならぬから、此事に就ては申しませぬが、兎に角坐るのは

餘り宜い事では無からうと思ひます。日本の外に坐ると云ふ慣習の國は世界に一つも有りませぬ。尤もマホメット宗を奉じて居る國で、マホメット敎の神を拜むときには、丁度日本人の坐る樣な位置になるが、ソレは唯一時のことで有る。其他或處では小學校などで授業する際、生徒が坐ツて居る處も有るさうだが、ソレ等は只マホメット宗を奉じて居る處で、一時の禮にするだけの事で有りまして、通常日本の樣に坐ツて居る處は無い。此坐ることが日本人の身体に非常に害を與へてソレが原因となツて、日本人の身長が短いので有らうと云ふのであるが、果してソレが一つが原因で有るか無いか、未だ確かに究める事は出來ない、若しソレが原因であるにしても、決して其の一事のみでは無からうと思ひます。現に始終坐ツて居る人の中にも、隨分体格の宜い人も有ります。其外にモウ一つ日本人の体格は西洋人と違ツて居る處が有ります。何かと云ふに、日本人は膝の處が眞直に延びない、ソレのみならず足の先きが曲ツて居ります。是れは如何なる体格の好い人でも、坐ツて居る者には免かれないので有ります。併し是れは小兒の時分から坐らせない樣にしたならば自然と療るだらうと思ひます。現に、僅に四五人の例で有りますが、私の友人などでも十二三歲の時に歐洲に參ツて、彼方の生活に慣れて少しも坐らなかツた者は、膝の處が曲ツて居らないから、遠くから見ても足が眞直で有ります。又西洋人には日本人の如く膝が内に偏ツて反ツて居る者はない何れも皆足が眞直で有ります。然し坐らなければ果して此足の短いのが長くなるかと云ふ事は未定

で有りまして、且つ又古の日本人は足部が長かッたか、或は短かッたか、先づ第一にソレからして調べなければならぬ。併しソレを調べるには非常に澤山の材料が入りまして、容易く調べる事は六ケ敷い。生理學上から申して、人工で加へた障害が人に遺傳するのは何代位ゐ經過るか、又果して遺傳するものか、若くは遺傳しないものかと云ふことを調べても容易に解らない……が兎に角坐るのは利益は無くして、或る弊害を殘すに違ひあるまいと想像されます。併しながら是れを改良するには、衣服及び家屋の構造などにも關係致しますから、迚も一朝にして改める事は出來ない。故に先づソレは其儘にして置いて、足は曲ッて居ッても短くても宜しいとして、第一に体力を増し、体格を充分ならしむる爲めに運動をしなければならぬ。運動の中でも、務めて体操しをなければならぬと云ふのが私の希望で御座います。

若しも世の中に私一人でなく、同感の人が有りますならば、私は毫も奔走の勞を厭ひませぬ、否寧ろ進んで奔走の勞を執る積りで御座います。愈々サウ云ふ事になりますれば、男子の爲めに一つ、御婦人の爲めに一つの体操場を建てゝ、僅か一週に二時間で澤山で御座いますから有志者は其處に集つて、一時間宛併せて一週に二時間の体操をする場所を定めて、長く繼續したいと思ふので有ります、勿論体操の方法に就ては種々有りますが、器械体操あり徒手体操あり、其時の便義に任せらるとして御集りになる方々の身体の强弱及び年齡に因て体操の方法も分けなければならぬ、若し又始めから一つにするなれば、平生身体が健康で

運動の充分な人も有りませうし、亦大變にからだが弱く、少しも動動する事の出來ない樣な人も有りませうから、徐々に進めて往くと云ふ樣にしなければならぬ。サウ云ふ細かき事に就ては、未だ外にも色々注意すべき點も有りませうが、ソレ等は總べて体操の先生が心得て居りますから、今茲では申しませぬ。若しサウ云ふ都合に參れば、婦人の爲めに幸福で有ると思ひますが、先づソレは出來るか否か知れないが、譬へ是れが出來ないにしても、ソレ程に運動の必要を感じた以上は、何とか外に方法を立てなければならぬ。其時はドウしたら宜いかと云ふに、己むを得ずんば室内体操に限ると思ひます。私は西洋に居ります時分、足の運動は晝間歩行するから宜しいとして毎夜手腕及胸の運動の爲めに四貫目以上も有る「ダンベル」を持て二十分間搖り廻しました僅かに二十分間でも隨分からだが疲勞まして冬でも發汗しますから、充分の運動になるだらうと思ふ。後には大分賛成者が出來まして大勢の日本人が私の房室に集ッて遣りましたが、餘程からだの爲めになるだらうと思ひます。室内体操の仕方は、飜譯本が澤山に出來て居りますから、ソレを御覽になると宜しい、僅か木製の「ダンベル」が一つ有れば宜しいので、寧ろ一本の棒でも差支は無い、棒を以ておりと、御室の内或は御庭なりで体操をなさると、運動の一部分を補ふ事が出來ます。室内体操の書も澤山有りますが、保利と云ふ人の譯した「シレーベル」氏の室内運動と云ふ本が一番宜しう御座いますから、兎に角ソレを御覽になつたら宜しからうと思ひます。デ是れまで申上げました事は前

後混雜致しましたが、運動の忽かせにすべらざる點を搔摘んで申したので有ります。併ながら前に申し述べたことが一つも出來ぬなれば、せめては散歩だけでもなさるが宜しい、散歩にも障碍が有ると云ッて、何時までも障碍を障害として保存して置いては、何の世に至ッても他の國の人の樣に充分に運動をすると云ふ事は決して出來ない、今日から、直ぐに少し宛の障碍は取除いて、するだけの事はしなければならぬと思ひます。而して漸々改良して往きましたならば、遂には全く改良し盡して自分のからだを自由自在にする事が出來る樣にならうと思ひます。西洋に於て能く聽きまする語は「今日は未だ運動しなかッた」「今日は外に出なかッた」と云ふ事で有りますが、日本に於ては、男子は格別、婦人方は「一月門外に出なかッた」、「二タ月步行いた事がない」と云ふのが、即ち西洋人の「一日外に出なかッた」と云ふ語に相當するだらうと思ひます。次に申上げます事は、是れまで申上げました事に關係をして居りますから、序でに暫時淸聽を煩したいと思ひます。

是れは私が少し必要が有ッて調べた事で有りますが、一体日本の男子は西洋人に比して、ドの位ゐからだが惡いか、日本の婦人は西洋の婦人に對してドの位ゐからだが惡いかと云ふ事に就て、其比較を數字を以て申上げると云ふことは、今日の處では出來ませぬが、兎に角歐羅巴の男子に對して、日本男子の身体が惡いと云ふのは、明かなる事實で御座います。尙は歐羅巴の婦人に對して、日本婦人のからだが男子との比較より一層劣ッて居ると云ふことも確かなる事で是れはモウ一般に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

信じて疑はぬ事實で御座います、勿論私は幼少の時に田舎に居ッたばかりで、東京に永く住して居りますから、田舎の婦人の健康の度合は、ドレ位ゐのものか存じませぬから、一般に日本婦人と申すのは、主に東京の婦人を標準として申すので御座います、或時日本婦人の死亡の統計と、西洋の婦人の死亡の統計とを比較した事が有ます。併ながら統計が委しく進んで居りませぬから、西洋の統計と雖も、悉く確かで有るとは云へない。殊に私が調べまする時に、彼是から引き去ッたり加へたりして、作ッた表で有りますから、是れを二つ併せて比べて、少しも誤りなき數とは申されないが、自分の平生感ずる處を述べて、旁々數字を助けにすれば、強ち助けにならぬ事も無からふと信じて居ります。則ち日本の統計と、西洋の統計とを比較すれば、大体の結論が斯様になるので有ります。ソレに就て先づ最初に御咄して置かなければならぬのは、婦人の數と男子の數とを比較すると、歐羅巴に於きましては婦人の方が多い、歐羅巴全体では男子より婦人の方が二百万だけ多い。伊太利獨逸などは、殊に婦人が多いので御座います、我日本では著しく男子の數が多い。而して日本及歐羅巴に於ける男子と婦人の死亡數はドチラが多いかと云ふに、是れに就ては歐羅巴にも極く精密なる統計表は有りませぬが、其中で英吉利、「ベルジック」「スイッツル」「ゼチフ」府の統計が稍委しく取ッて有ります。英吉利では十年間八年間六年間五年間と年を分けて取ッておりました、私の今日申上げますのは、餘程以前のもので有りますから、幾らか違ひが有るかも知れんが、英

吉利には男子と女子との死亡を比較すると、男子の方が余計に死ぬ。八年間の中、時としては男子の死亡の少ない事も有ります。勿論戰時は別で有ります、統計は總べて戰爭の無いときを取ッたので有ります。ゼチフ府の統計は女子の死亡數、(女子とはこゝでは十五歲以上四十五歲までの間を云ふので、他の年齡に於ては男子も女子も畧關係が同じで有ると認めまするし、統計上に於ても死亡數に大なる差はない)はドウかと云ふに、先づ女子が十五歲以上にあッて、他に嫁しましてから自ら家政の中心となッて、働く年齡を大概四十五歲迄と定め、身体の健强も亦其間が最も盛なる時で有りますから、其間の男女死亡の數はドチラかと云ふに、女子の死亡數が著しく少ない。英吉利の統計では大なる差は無いが、併しドチラかと云へ、男子の方が多く死ぬ。其外ゼチフ府丈けの死亡統計も、著しく男子の方が余計死ぬ。其他五年間の統計及び千八百五十八年、千八百五十九年の統計も同じく女子の死亡は男子よりも少ないのでござります。ソコで日本は、ドウかと云ふに明治二十四年と二十三年の第十一第十二統計年鑑で有りますが、是れに依ッて見ますれば、一体日本は前に申します通り、全國に婦人より男子の方が非常に多いにも拘らず、死亡數は婦人の方が多い。尤も十六歲から四十歲までしか取りませぬが、此間の死亡數は婦人の方が著しく多いので有ります尙は區別して申せば十六歲より二十歲、二十一歲より三十歲、三十一歲より、四十歲までは婦人の死亡が非常に多い、其外の年齡に於ては、ドウかと云ふに統計表は無いが一歲から五歲までは男子

が餘計死ぬ、六歳から十歳までも矢張り男子の死亡が多い、十一歳から十五歳までも、男子の死亡が婦人の上に出でます、斯樣に當歳より殆ど成年に至るまでは男子が餘計に死亡しますが、十六歳からは全く反對の現象で十六歳より四十歳に至る毎年の統計は、必ず女子の死亡が多い。其中の例を申せば、明治二十三年の統計は二十一歳から三十歳までの男女の死亡は、男子二万七千五百三十三人女子二万九千八百四十七人で有ります。明治二十四年も丁度其位ゐの差が有ります。委しき事は統計年鑑にござります斯くの如く一体の婦人の少數なるにも拘らず、死亡數は二千餘も多く死ぬ。死亡數の上から云へば割合に少ないが、頭數から比較すれば、婦人が嫁して、家政の中心となッて働く間の死亡數は著しく多いので有りますが、詳細の數は解りませぬ。然して其原因は何かと云ふに、初めての產の時に難產で死する者が多いので有らうとか、若くは婦人の病が多いので死亡數を高めるとか種々の說が有りますが、成程隨分初產で死するものも多い樣で有りますが、併し全体の上から觀察し、死亡數の割合から云へば、產で死するものは少ないので有ります三十歳以上四十五歳までの死亡の統計も十五才から三十才までの死亡數と格別の差は無い殊に歐維巴に於ては一体に產が重いと云ふことは確かに證據のある事で御座います斯る危險の有るにも拘らず、西洋では男子より婦人の方が死亡數が少ない然るに日本では婦人の方が死亡數が多いと云ふのは、必ずしも產がドウ斯うと云ふ事は無いと思ひます。況して歐維巴に比較すると、日本は大へんに難產が少ない、

西洋婦人より日本婦人の方が一体に産が輕いと云ふは、確かに産科の醫師の申して居る事實で御座います然ればなんだか解らぬ原因で、十六歳以上四十歳までの婦人が多く死ぬと云ふのは、疑ふ能はざる明かなる事實で御座います。

デ西洋でも婦人の長壽をする事に就ては色々説が有ります申せば、婦人は發育が早い、其割合に長壽をする。是れは日本でもサウで御座います、六十歳以上になると、男子の數が非常に少なくあッて、婦人の方が多くあります。則ち其現在數は一歳から十五歳までは、男子百人に就て、女子九十六人より九十九人。十五歳から五十歳までは、男子百人に就て女子八十三人より九十七人、五十一歳から五十六歳までは、男子百人に就て女子九十四人乃至九十九人五十七歳から六十一歳までは…………是れは明治二十三年の統計ですか、此外は女子が男子に超過して、男子百人に就て女子百〇二人、漸々に女子の數が男子を超過して、六十一歳以後七十歳までは、男子百人に就て女子百〇四人、七十一歳で男子百人に就て女子百十七人、七十六歳に至ッて男子百人に就て女百三十二人、八十一歳で男子百人に就て女子百五十六人八十歳の時は百六十九人九十歳の時に男子百人に就て女子二百二十一人、九十九歳に至ッては、男子百人に就て女子四百七十八人と云ふ樣に高齢に至るに從ッて、男子の數が減して女子の數が多くなッて來ます。是れに反して十六歳より四十五歳までは、女子の死亡が著しく多いので御座います。けれども日本の婦人の産は輕いので、産の爲めに死ぬものは比例上少ない。サウすると四十五の齢まで

に婦人の死亡數の多いのは、何の原因かと云ふに、强ちに運動缺乏の故とも申されない。何故かと云ふに、日本の婦人と申しても、東京ばかりでは無い、田舍に住んで居る人も澤山にあッて、サウ云ふものは勞働も充分に致しますから、是等の者に向ッて運動缺乏とも申されぬが、併し社會上の關係が、婦人に影響を及して知らず識らず死亡數を高めるのではないかと考へて居ります。

西洋で、男子の死亡數が多いと云ふに就ては、種々の證據が有ります。譬へば戰爭が無くても、男子は十五歳以上になれば、社會に立ッて働かなければならぬ。ソレが爲め、非常に精神を勞することが有る、從ッて寒暑にも冒され易い。殊に妻子を養はなければならぬから、ソレに就ても心を勞する事が多く有ります。又太平の時と雖も、自身の職業上危險に出會ふ事も往々有ります、亦殊更に危險を冒して、業務に從事することなども有ります。其他男子にあッては、自分で身分の身を破す様な場合が幾らも有ッて、殆ど防ぐ能はざる病の原因が種々有りますから從ッて死亡數も多いので有ります。之に反して婦人は始終受身の場合に立つもので、種々の境界に其身を處して往く事が出來ます。例之ば男子と結婚すると、男子の性質に化せられて、少し無理な事が有ッても、精神がソレに適合して往きますから、困難も左程困難と感じない様になります。殊に婦人は危險に遇ふと云ふ事が極めて少ないから、是等も西洋に於ける婦人の死亡數の少ない所以で有ります。

然るに日本では、社會上の關係よりして、婦人が結婚後家政の中心となッて働く間は平生隨意に

外に出る事が出來ない爲めに、運動の缺乏も一原因となり、婦人の身体を弱くしまして、從ッて死亡數を増すのではなからうかと思ふ。都會に住んで居るものは、無論運動は缺乏して居るのですが、田舍に住んで居るものは、少しは勞働を致しますから、東京に住んで居るものに比較して、多少運動は付いて居りませうが、矢張り社會上の關繫を免かるゝ事は出來ませぬ、ソレ故田舍に住んで居る人も矢張り社會上の制裁に歸さなければならぬ。デ日本の婦人の地位に就て、歐羅巴諸國の婦人と比較して見ると、ドウしても、日本婦人の方が劣ッて居る。則ち日本では古來より男尊女卑と云ふ事が盛に行はれて婦人の境遇は常に男子の爲めに壓制されて居ります故に婦人の利益が至ッて少ない、西洋諸國に於ては決してサウ云ふ事はない、併し日本でも十年二十年と漸々に改良されては居りますが、前に申す如く障害は何時までも障害として置いては何時になッても迚も歐羅巴諸國と同じ樣には立ち到らぬだらうと思ひます。けれとも婦人に若し其方が利益があると云ふならは所謂男尊女卑でも少しも差支は無い……若くは其方が宜しいと云ふなれば、ソレは何れでも宜しいが、苟くも身体の不利益となることならば、速かに改良をしなければならぬと思ひます。兎に角今日の場合では、一種の社會の制裁上より大へんに日本婦人の死亡數が多いので有らうと思ひます。

其反證は、大概六十歲以上になると夫の無い者が多い（勿論夫婦倶に現存して居る者は格別で有ります）婦人が既に良人の無い以上は、先づ是れは自由の人と認めなければならぬ。ソレ故女子は五

十歳以上にあると、自分の職とか、務めとか云ふ事は子とか、若くは孫とか云ふ者が繼續きますから、若い時の位地とは全く一變して、氣樂な隱居にあると云ふのが、日本の社會の狀態で有ります。ソレ故婦人が五十歳位ゐになると、死亡數が稍男子と平均になり、漸く年齡が重なるに從ッて遂に婦人の生存者が男子の上に出づる樣になります。斯の如く婦人が或年齡を越へると、却て男子よりは長壽をするものが多い、是れは外國でも婦人の方が長壽をする。ドウ云ふ譯であるか、理屈は兎も角も實際明かなる現象で有ります。ソレに反して日本に於て四十五歳以下の婦人の死亡數の多いのは種々原因も有りませうが、兎に角社會の制裁で、婦人の精神並に身体の自由を束縛さるゝのも、亦一の原因で有らうと思ひます。若し注意して是れを變更する事が出來れば、大へんに婦人の健康上に影響を及すで有らうと思ひます。

次に男女の病に罹る統計を御話したいと思ひますが是れは、到底數字を以て申上げる事は出來ないが、若し男女健康の度を計る事が出來たならば、必ず婦人の方が虛弱で有らうと思ひます、故に幸にして夭折の難を逃れても、唯トボ〳〵として活きて居るばかりでなく、飽迄强壯の身体にしなければならぬ。就ては目下第一の必要は、身体の運動で有りますから、男子と女子の爲めに体操會を設けて一般の婦人に体操を奬勵したならば、大に利益が有らうと思ひますので、大へんに長い間御邪魔を致しました。

(參考の爲め左に二三の統計表を載す)

第一表

日本男女死亡比例

年齢		明治廿三年中男女死亡數	現在男女千人中比例	明治廿四年中男女死亡數	現在男女千人中比例
1—5	男	127, 872	302, 28	133, 907	306, 56
	女	110, 822	280, 38	118, 205	286, 66
6—10	男	13, 902	32, 84	14, 265	32, 66
	女	13, 056	33, 03	18, 882	33, 67
11—15	男	9, 477	22, 40	9, 308	21, 31
	女	9, 430	23, 86	10, 017	24, 29
16—20	男	12, 580	29, 74	12, 826	29, 36
	女	13, 196	33, 39	13, 918	33, 75
21—30	男	27, 533	65, 09	26, 642	60, 99
	女	29, 847	75, 51	29, 370	71, 23
31—40	男	28, 699	67, 84	27, 687	63, 39
	女	31, 422	79, 50	30, 509	73, 99
41—50	男	35, 776	84, 57	36, 299	83, 10
	女	28, 986	73, 33	28, 917	70, 13
51—60	男	42, 822	101, 23	44, 345	101. 52
	女	32, 525	82, 29	33, 220	80, 56
61—70	男	57, 962	137, 01	61, 604	141, 52
	女	49, 273	124, 66	52, 241	126, 69
71—80	男	47, 778	112, 94	50, 712	116, 10
	女	51, 074	129, 22	54, 989	132, 63
81以上	男	17, 711	41, 87	18, 456	42, 25
	女	25, 097	65, 50	26, 967	65, 40

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第二表

英國倫敦府男女死亡比例

年齡		千八百四十九年ヨリ四年間平均	千八百五十八年	千八百五十九年
15以上	男	6967	1552	1552
	女	6732	1502	1628
25 〃	男	9091	2031	2081
	女	9090	2102	2257
35 〃	男	10305	2492	2507
	女	9756	2202	2307
45 〃	男	10391	2497	2613
	女	9284	2138	2161
55 〃	男	9819	2577	2668
	女	10063	2615	2459
65 〃	男	9393	2444	2356
	女	10731	2909	2779
75 〃	男	5228	1515	1405
	女	7860	2063	2116
85 〃	男	1102	293	254
	女	2062	542	493

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第三表

瑞西國「ゼチーブ」府十年間平均男女各千人ニ就キ一年間ノ死亡數

年齡		
15以上	男	7,7
	女	7,1
25 〃	男	10,4
	女	8,4
35 〃	男	12,9
	女	9,9
45 〃	男	19,0
	女	13,7
55 〃	男	37,3
	女	32,1
65 〃	男	78,2
	女	71,7
75 〃	男	182,9
	女	185,4

第四表

瑞西國「ゼチーブ」府男女死亡比較表(十七年間平均)

年齡		
20—30	男	665
	女	604
30—40	男	694
	女	656
40—50	男	785
	女	616
50—60	男	871
	女	799
60—70	男	1028
	女	1160
70—80	男	1138
	女	1366
80—90	男	546
	女	743

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●浴湯の話　（前々號の續）

宮本仲君

次に熱浴此れは日本人御同前の常に好んで行浴する温度の湯であります夫れ故に此事を詳しく述べて見たいと思ひます。此熱浴は、古來日本人に在ては我からだの温度に適當して居ッて、殊にからだを丈夫にするもので有ると誰れも皆思ふて居りました。然るに西洋の醫學の開けて以來、熱浴と云ふものは、反つて身體の皮膚を弱め寒さに抵抗する力を減ずるの恐れが有る、故に容易に感冒などもせぬ樣に皮膚を強くするには、温浴が宜しいと云ひ又温浴よりは寧ろ水を浴びるが宜い、冷浴が一番だと云ふやうな說が出て來て、之を唱へるものが多くなりました。又醫書などにも、熱浴は療養の他平常這入る湯でないと云ふことが書いて有る、而して一應は我々も亦左樣考へます。併ながら古來の習慣は理屈一片で忽ちに之を說き破り一概に之を改める事は出來ないものです、理屈で斗り是れを當て嵌める事は六ケ敷いで有りますから、先づ熱浴が如何に害になるか、否かと云ふ事を定めて、害にならぬ以上は、是れまでの習慣を強いて改めないでも宜しからうと思ふ。けれども若し數多の西洋人が云ふ通り、熱浴は害になると云ふ事が判明したならば速かに否な寧ろ漸々に慣しつゝ、改めるが善い即ち改めて温浴にするも宜しいが、爾來極めて習慣に染み込んで居る人が西洋風であるからとて一も二もなく感服して、強いて心を曲げて、之に倣ふと云ふのは却て輕卒ではないかと考ひます例之は今爰で私共に熱浴は毒だから、直く改めて温浴に這入るが宜しいと言は

浴湯の話

れても往けませぬ、無理に温浴に入りましたなれば、直ぐに風を引いて仕舞ふ。私は幼時よりの習慣てドウしても四十度以上の湯でなければ入浴した心地にあらぬ即ち冷えた樣に思はれて反て氣分が惡い。去りながら夏の頃には水を浴びます事もあるが、ソレは唯暑さに際して、冷たい水を浴びるのは、心持が宜いものだからするので。敢て熱浴が毒だから温浴にしやうとか若くは冷浴が藥だから温浴を廢めて、水に浴するとか云ふ譯ではあいホンの慰み位にするのです。ソレ故倘は經驗上と道理上との二点に就て熱浴が害にあるか或は毫も毒にあらぬか否かと云ふ事を調べて置きたいと思ふのでありますが、今先づ「ベルッ」氏か嘗て「ツイスパーデン」と云ふ處で、日本の熱浴に就て談話を爲された一節を一寸お借り申て言ふて見ますれば日本にて實見するに熱浴は平常人か日々之を行ふて少しも害にあらぬのみあらす、却て利益するものであるから、日本の湯の樣なものを西洋にも設けたならば、職人、或は其他勞働を業とする下等社會の人々か、廉價にて容易く湯に這入る事が出來て、一般に大に便益で有らうと云ふの詳細に其所以を演説せられた事も有る、サテ熱浴の作用即ち此を行つた時にはドウ云ふ狀態を身体上に惹き起すかと云へば、湯に這入ると、先ッ第一にからだに刺戟を與へてゾッと寒氣立ちたる樣に感じますが、是れは皮膚の表面に熱い湯が觸れるので、其神經を刺激して、一時チョッと脈管が収縮するから、顏色なども鳥渡蒼くあるやうだが、僅が一分も經ゝぬ中に、反て其血管が膨脹して來まして、直ちに眞赤になッて参ります。ソレから少

し長く這入ッて居ると、血液の循環が盛になッて呼吸の數も增して來ます。初め這入ッたときは心臟の動悸も靜かでありますが、少し經つと、追々と余計に作用き出し、從て脈が進んで來て、カッカと頭に逆上せた樣に充血致します。併し頭部に充血するのを防ぐには、全体初めより頭と顏を湯にて濕し度々洗へは宜しいのですが、御婦人方の御頭には湯を注ぐ事は出來ないから、顏から耳の邊、首の周圍を十分に度々濕はして置きになれば、直に逆衝して卒倒するやうな事は無い。斯樣に血液の循行が盛になるので、皮膚の表面若くは內部にある處の液体の欝滯して居るものが消散せらる即ち吸收さるへきのは吸收され、排泄さるへき分は排泄さるゝと云ふやうに、新陳代謝の機能が盛になッて來る又タ、汗も澤山に出て參り從て皮膚が和ぐ、垢が浮いて鳥渡摩つても直ぐ落るやうになります、此の新陳代謝と申す辞は醫學上詳しく說明致せば中々六ヶ敷いから、唯た是れは自分の體內に於て舊く不用になつたものを外に排出して、更に新らしい營養になる成分を攝取て以て補償すると云ふ作用を爲すものであると、思召置かるれは夫れて宜しい。斯う云ふ作用を助くる處を以て見れは、熱浴とても決して人間の身體を毒するのみのものではないのみならず、却て利益の點か多くあるので御座います。爰に一つ申上げて置かなければならぬ事は一說には、熱浴に久しく這入るものは皮膚の血管か弛縱し血液か大に充漲し汗腺の作用か盛んとなりて汗が大へんに出易き僻となる即ち熱浴の久用は皮膚を荒撫し表皮剝屑し易く血管は弛緩し發汗僻となり又た皮膚の知

覺神經が敏捷になつて僅かの外來刺戟に反應し易くある從ッて少し寒き空氣に觸れとも風を冒き易くある、屢々寒冒するのは常に熱い方に慣れて皮膚の機能が弱いから、寒い方の刺激には堪へ難くなッて居る故のとで有る。ソレ故皮膚を強めるには、湯よりは寧ろ水の方が宜しい、熱浴は宜しくないと云ふ論者が有りますが、併ながら私共は湯上りに風を冒くものは實際甚た少い事と思ふて居ります、殊に「ベルッ」氏なども湯上りに感冒するか、否かと云ふ事に就ては豫ねて注意して居られて其說に強熱浴即ち通常日本人の行ふ如き熱い湯に這入ると、一時脈管が痲痺するので單に擴張したものでないから、僅か寒冷の刺激を受けても一向平氣で有る。ソレ故湯上りの後に風を冒くと云ふ事は殆んど無いと思はれると陳へられました。又「リーベルマイステル」と云ふ人は、四十一——二度位の湯に這入ッた時は必ず体温を昇騰す而して其初め体表の温度は內部の温に超過するも遂には互に平均するものた」云々と云はれました眞に熱浴に長く入れは身体の温氣を感じます。浴後暫時は寒暖計の一二度若くは其餘も体温の昇進するを見ます斯樣ですから「ベルッ」先生は實見上湯上りに風を冒く事は無いと申されました、我々も亦た夫れを信じて居ります。併極く不注意にして浴後、風の當る處に長く肌膚を冷して居ッて、俗に言ふ湯冷をするやうな人は、勿論例外であります。是れ等は熱浴に這入ッた時ばかりでなく、冷浴を致した時でも矢張自分のからだに適當した衣服も掩はずに、外の空氣に觸れて居ッては同じく風を冒くに相違ない、強ちに熱浴後計りではあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

い此れは湯ざめの罪てす嘗て。「ペルッ」先生「ウイスバーデン」と云ふ所で演說された中にも、「余は熱浴の害と云ふことを信せざるのみならず、寧ろ害無き事を實驗して居る。熱浴の後に冷水を頭と体とに注くは別して宜き樣てある眞に强壯なる日本の職工を看よ……彼れ日本の職工は、僅かに麵麭一片を買ふに足る程の廉價を以て、非常に愉快の感じを購ひ得て居る、殊に極寒の季候に當て貧人が容易に求め得る能はざる處の温暖を熱浴より取ッて以て無上の愉快を感じて居る斯う云ふ事は迚も歐州人が思ひ當らざる所で彼等は毎日一回乃至二回も入浴をする則ち日本の湯錢は甚だ安直で容易く湯に這入る事が出來るから職工など勞働者に取りては其快樂の主なる一事と思はる實に終日勞働をして疲勞した人間が熱浴に這入ッて勞働中の汚垢を去り身体を温め發汗をさせ、新陳代謝を高め疲勞れを除いて諸部緩解し其上に程能き一身の温暖と神思の爽快とを得て、睡氣を催し終夜安眠に就く朝も亦起きて直ぐに湯に入ッて睡氣を去り温を取り身神の機能を催進し口に言ふ能はざるほどの愉快を取るとか出來る加之ならず、夏暑き日と浴後には快を感じ冬寒き日も亦た雪が降ッても雨が降ッても、湯に這入ッて温を取り毫も其季候に恐れずに業を執つて居る斯く寒氣の烈しき時と雖も職業を勵み少しも體に害かなく丈夫で有るは熱浴の効か幾分の助けをなすのてある是れを以て觀れば決して熱浴は害なきのみならず、大に利益か有ると云ふ意味を先生か演へられました就て考へましても又た我々か平素見る所に依りましても古來の習慣ある者は、殊更に冷水浴又は温浴

に改める必要をは感じないかと存します温浴より熱浴が勝ッて居ると主張するのではないが、強ち害になるとも論じられない。ベルツ先生の熱浴の說は學理と實見により、公平に考究したる意見で有るが、私共も日本古來より因襲せし習慣をば實見の如何をも探究せずして譯なしに擯斥して強いて改めんと、欲して嬰兒より温浴水浴に慣れたる歐人のまねをしてからだの虛弱なる人が俄かに轉して殊更に水を浴び、若くは温浴に這入るには及はぬだらうと思ひます。平生健康で多血で、始終運動して身體諸部の發育と能く外襲に對して抗抵力の極めて強い人ならは能く熱浴に堪へることの出來ると同じで冷浴でも温浴でも何にでも、不愉快を覺へざるのみならず、悉く堪へ得る事が出來ますなれ共之に反して身體の薄弱なる人々が強いて遽かに改め樣とすると、却て害を受くる事がありますから、改めんと欲せは必す時日を費して漸々に移行くへきものと御承知ありたい例之は是れまで熱浴温保の習慣ある人が、俄かに每朝水でからだを拭くとか水を浴ひるとか云ふ樣な事をすると折角爲すッても、水て拭いた風を冒いた冷水浴に入つた病蓐に臥したと云ふ樣で、なんの効も無きのみならず、却て害を受けるので、是れは効用を誤解したる、過失と云ふべき出來事てす若し強いて爲さらうと云ふなれば、夏暑い時分から習慣を附けるか宜しい。昨日まで熱浴を取ッて居りなから、今日より遽かに冷浴に換へると云ふやうなことをしては強壯なる人はイザ知らす大概の方はからだを損ずる基で有りますだから、冷浴を爲て見たいと思召すなれば夏暑い時分から習慣を附け

て、冬寒き折に至らば、浴室の戸を密に閉ぢ籠めて、風の流通を防いで、其内にて入浴し行浴後はからだが熱く感ずるまで、潮紅になるまで摩ッて濕氣を拭去つて、其上で御衣服を召すと云ふ樣に成さるが宜しい、成るべくは御幼年の時分から習慣を附けるが善い。よし子供の時分からでなきにもせよ、暑季からの習慣を心掛ねばなりませぬ。殊にからだの虛弱なる人が何事にも急變をなさるのは大へんに宜くない事と思ひます。けれども虛弱の人でも冷浴をすると大に心氣が爽快になッて決して風を冒かぬと云ふ樣に慣れて居らるゝ方は又た熱浴に更るに及はぬ繼續なさるか宜しう御座います。冷浴の效能あるは反對する事の出來ない確かなる學理で有りますから、決して遣ッて惡いと云ふのでは有りませぬが、若し冷浴をすれば、必ず風を冒くと云ふ樣な人が、此道理を會得し得すして感冒を防んが爲めに冷浴をして、却て寒冒に罹るが如き害を受ける者が往々有るを見掛けますから呉々も此道理を誤らない樣になさるが宜しう御座います。特に冬時の如きは我邦の家屋の搆造衣服の制形など歐米のものと異なれば此等と浴時と浴後とに在ッて比考して見なければならない一注意事と存します。

次に湯に這入る度數に就て申せば、私などは西洋に居ります時には五日乃至一週間に一遍位すら這入りませんでしたが假令其間に淸拭ても一週間に一遍の湯では少しく遠う過ぎる樣です。日本では多くは毎日隔日若くは二日置き位ゐに這入る方も有りませうが、成るべくは毎日這入れば結構で有ります。ソーして垢をからだに附けて置かぬ樣注

意するのが必要で有ります。日本人は垢を落すのに、通例糠袋、石鹼又た御婦人方は其外に鶯の糞、厚朴炭、輕石、へちま又垢摩りなとお用ひになります、甚だしい人は、呉郎の布で垢を御摩りになりますから、後で皮膚がヒリ〳〵として堪まらぬと云ふやうになる、餘り斯様に御摩りにならひでも宜しい、初め熱浴に這入りますと、皮表が濕つて垢か和かに浮ひて參りますから唯た石鹼、糠汁なと付けて洗ひ落せは十分てす然るに他の堅い呉郎服で摩ッては皮膚荒蕪し表皮削剝して堪まりませぬ磨ひて奇麗になれ共定めてお痛ひ事てあり升否な痛いのみならす毒になり升汚垢を流すは藥りですか表皮を蕪荒すは甚た宜しくない貴婦人方の皮膚に適當したる羽二重位ゐで摩するが宜しい。

入浴の時間は浴の温度、年齢、强弱等に由て差別かあります大概六七分から長く共二十分位ゐか極く適當で有ります。從來の習慣で非常に長く御這入りなさるのは宜しくないから、漸々に御改めになるが宜しう御座います。一度這入ッてソレて程能く垢の浮いたところを垢摩の如き硬き物で摩らないで唯た、石鹼をたつぷり擦り附けて十分に垢と和したる後湯を灌いて置けはそれて宜しい。併し足蹠には輕石へちまの類をお用遊はすもよろしいです

（以下次號）

●首下り病取調報告（前々號の續）

本病の發生する時期は五六月より十月に至るの間にして則ち氣候温暖、空氣濕潤なるの時期に最も多く冬期には殆ど之なし

本病の流行地は第三期層に屬する所最も多しと雖も尙ほ古き層に屬する所もあり」

土地の高低、家屋の位置等は本病の發生に著しき關係なし丘陵の上又は山腹に住する者も低地に住する者も共に本病を患ふ」

家屋の構造は貧富の差に由り小異ありと雖も家屋の一部分を以て厩と爲すに於ては一なり厩は臺所と密接し板を以て其界と爲すものあり或は然らざるものあり乙の塲合に於ては人の居間と牛馬の住所とは全く相通ずるなり若し板を以て厩と住居とを區劃するときは其一二箇所に馬の頭を出し得るまでの穴を穿ち以て食料を與ふるに便にす故に厩内の臭氣は常に屋中に充滿し厩内に在りし所の蒼蠅は忽ち室内の食物上に在るは常なりとす夫れ何故に牛馬と人との住居を斯の如く密接せしむるかと云ふに一は冬時に以て厩内の凍結して牛馬の疾病に罹るを防ぎ、積雪戸外に堆きに當りて厩に到るの勞を省き一は己の住居を温暖ならしむるに在りとす且つ該地方の人民は牛馬を以て無上の財原と爲し己の妻子よりも尙ほ之を鄭重に取扱ふの風習あるものゝ如し是れ該地方の人民と牛馬とは相離れざる所以なり病一家内に發生するときは或は一名の患者を出すに止ることあり或は家族悉く之に罹ることあり或は渾家病に罹らざるも一家二三名の患者を出すことあり

甲乙兩家ありて甲家には本病ありて乙家には之なしと爲すときは女子の甲家より乙家に嫁する者甲家に於て本病に罹りたるも乙家に住するに及びて全治することあり或は乙家より甲家に轉じて本病に罹ることあり

本病は村落にのみ流行して市街には殆ど之なく三戸の如きは以前首下り病の流行せし時は商業一分農業九分なりしも商業を専一に營むに及びて全く其流行を見ざるに至れり

村落に於て數戸相鄰接する所と雖も其内一家に發病し互に相交通するにも係らず鄰家に及ぼさゞることあり

本病は老壯男女を問はず之を侵すものあり余の調査したる六十九名の患者中男三十四名、女三十五名にして其内には一二歳の小兒も七十六歳の老人もありたり、

該地方は男女共に野に出でゝ勞働するを常とす

（未完）

衛生叢談

◎漢法醫復活案

醫師免許規則改正法律案は衆議院に於て第二讀會まで通過したりしが第三讀會に至り可否採決せしに結局少數を以て否決せり是自然の勢ひにして免れざる處あり

◎日本兵の耐寒力

日本兵士が北緯三十六度以下の暖國より進んで四十度以上の滿洲に入り零度以下十度以上の寒地に於て戰鬪するは恰もナポレヲンの莫斯科に於けると一般なるべしと世界一般に想像せしが事實は全く反對にして日本兵士は而かも嚴寒指を墜さんとする寒地に於て衣服の輕裝なるに拘はらず一進一擊常に大勝利を得るを見れは獨逸の軍隊に勝るや明なりとペルッ博士は悟れりと是も亦日本民族特有なる膽勇の致す所あらずんばあらず

◉凍傷者の實況

去る十五日御用滊船正豐丸にて宇品に歸朝したる解雇人夫は其數二百有餘なりしが彼等は蓋平地方に於て糧食の運搬に從事し居たるものにて其内には相變らず凍傷に罹りて手足腐爛し歩行するにも疼痛を感じて困難するもの殆んど其半を過ぎたり彼等の中輕傷なる者は既に鄕里に歸りたるが其内最も重き凍傷に罹りたる者は宇品なる歸朝人夫取扱事務所に於て療養をなしつゝあり或は手指腐爛して喫飯のとき箸さへ自由に持つこと能はざる者あり足部の凍傷に罹りたる者は隨分其腐爛甚だしく一見肌に粟を生せしむるの思ひあり彼等は木綿にて其の傷部に繃帶を施し身を横にして臥し居るのみ決して直立することを能はざるなり今彼の人夫に就て凍傷に罹りたる當時の模樣を聞くに全く寒氣の酷烈なる地に於て常に氷雪の上を歩行し少しくも身を暖むることなきによるが其の凍傷に罹るや最初は其の一部水膨れになりて少しく痒みを覺え夫より二三日を過ぎて一時に出血し知らず〳〵痛みを感じて終に歩行に困難なるに至るものあり戰地にては別に適當なる藥なきを以て豚肉の油を燃火にて溶かし之を傷部に付くるを普通の手療治法となし居れども之は二三日間少しく痛みを去ると雖も久しきを保たず又た若し凍傷に罹りたるときは如何に寒氣身に透ると雖も火を以て身体を温むること能はず何となれば凍傷の部分は却て此の暖氣の爲め其痛味を増すべければなりと(讀賣新聞)

◉世界有名の義足師

米國紐育府エー、エー、マルク氏は數年人工手足の製造を業とし千八百五十三年特許を受けて以來四

十有餘年間各國に戰役ある毎に多くの注文を得特に先年我國にても大隈伯爵西鄕從次郞兩氏の如き皆その義足をマ氏に製造せしめたる由なるが今回各師團に贈りたる注文書に因れば一旦手足を缺きたるものと雖も乘馬自轉車或は綱渡り杯の輕技をも容易に出來得る程に種々工夫を積みたる製造法なりとぞ

◉第一軍の衛生近情

一兩日前其の筋に達したる報告に依れば第一軍に於ける衛生上の情況は至極良好の傾向を呈し流行病の如きは既に全く其の跡を絕ちたりといふも不可無く僅に凍傷患者を生ずるも何れも輕症にして毫も意に介するに足らざるのみならず其の患者官吏の意注を肯かざる人夫に多くして初めより注意周到なりし隊には一人の患者をも生せざる程ありと左れば去月來の滯積患者も當局者の豫想よりは殆んど半數に過ぎずと云ふ

◉無病長壽の法

白山に南淵禪師となん云へる名僧智識の禪學の師ありけり此頃客あり無病長壽の法を問ふ禪師曰く心は盜賊の張本たれ意外なる答へに客其意を解せす更に其意を尋ねしに禪師笑つて曰くそも盜賊の張本は既に身の罪人たるを知つて天下に恐るゝ所なし七珍万寶皆巳の有なりと思ふ故に大欲無欲の境界にあり是自から禪道の本意に適ふ所ありて概ね無病長壽なりと客始めて悟り俚歌に之有り「氣から病が出るわいな」夫れ此の謂ひかと禪師莞爾として領づきしといふ

◉軍中パンと米食の利害

パンと米食の利害は從來種々の議論あり今回の戰

手にて實驗するに米食は夏時は腐敗し易く冬時は凍り易く殊に携帶の容積大なるか上に軍隊の進むに從て何處までも米穀を運搬するに必要なり又一時に數日分の飯を焚き貯ふることを能はす之に反し軍用パンは一時に數十日分を便宜の地にて製し之を輸送することを得又急切の場合に一々飯を焚くの手數なくナポレオン一世がモスコーを改めたる時遙かに波蘭にてパンを造りて之を輸送したる程なりされはパンの米食に優ることと明かなりと云ふ者あり

●間食の弊

直ちに害毒を一身に來さゝるも間食は頗る戒心すべき事たり然るに三度の食事の外は一切間食せざることは困難なるにより成るべく其材料に純白なるものを擇ぶべし蓋し澱粉は其好原料たらんか

●戰爭後の衛生

戰爭後流行病猖獗を逞ふし戰死者より倘ほ多數の死亡者を出すは古來の歷史に其例多し已に今回の日清事件に就ても赤痢病流行し歸朝病者の中には同病の患者少なからざれば該病毒の全國へ傳播せざる樣豫防を嚴重になさしめ置くは國家衛生上の急務なりとて其筋に於ては昨今其協議中なりと

●インキと火傷

佛國の或る醫師の意見に依ればインキは火傷の妙藥なりと云此醫師或る日己れの得意先に召かれけるが其家の八歲になる子供沸りたる釜を降さんとて誤つて手を滑らし半身に熱湯をあびたるより其母は直に巨大の墨壺の墨汁を灌ぎたるに痛み去りたりと告げたれは火傷を見しに格別のたゞれもなき故に別に投藥を施さすして歸れり其後子供の火

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

傷はさしもに甚しかりしも自然に全癒したり思ふにインキには鐵部とタナン(澁酸)を含むものなれは火傷には功を奏する藥とならんと佛字新聞に見ゑたり眞否は知らず

●負傷兵の繃帶

陸軍省にては兵士か負傷の際自分にて繃帶を施す以前其傷口に用ゐる消毒の木綿を人每に渡し置きたるか數月の久しき消毒の功渺きしが爲め赤十字社及篤志者看護婦會にて熱心製造中なりと云ふ

●軍隊糧食發明

坂定義氏は豆と米とを原料として寒凍の助けを得て始めて軍隊の糧食を發明せしを以て仙台に居を占め製造に取りかゝるべしといふ

●赤痢

昨年一月より十二月三十一日に至る全國の赤痢患者總數は十五万四千七百十八人中死亡三万八千三百八十八人之を一昨年に比すれば一万二千二百二十一人の減少なりといふべし

●赤十字病院の救護

昨年八月より同十二月に至るまで戰地に向て救護をなし仁川、平壤、義州、龍川、大連灣等へ假設病院を設けて大に彼我の負傷者を救ひしか其救護費總額は八万四千三百余圓にして内外人寄贈金額は四万四百余圓に達し其他露佛、蘭の赤十字社より寄贈の分も少からすといふ

●凍死

人若し寒氣凛烈なるに際し海中に陷れば如何に强健なるも凍死を免れさるへし某國手の話に凍死は眠るか如しと彼の雪中山道など通行するに當り睡

氣の生ずるは凍死の前兆にして其儘眠れば必ず死するよし

●聾と消化器病

渡淸せる人夫中に淸國にありて聾となりたるもの多しとこは寒氣の爲め咽喉カタルを患て咽喉より耳へ通ずる管に炎症を起したるものなりといふ

●天然痘發生の通知

千葉縣平郡船形村及び朝夷郡職村に於て過般來天然痘發生し目下病勢漸次衰頽に赴きしも山梨縣下の如きも追々蔓延の模樣ありといふ

●流行感冒

去月十五六日頃より寒氣の俄に烈しくなりたるためか府下に感冒を病むもの甚多し其症は熱強くしてやゝもすればインフルエンザに變じ易き一種惡症の感冒なれは人々注意肝要なり

●婦人衛生會講演

本會に於ては此度獨逸より歸朝せられたる醫學士坪井次郎君に毎會生理解剖學の講義を依托し益々斯道を研究せんとす本會員には可成來聽せられんことを

●大日本婦人衛生會々況

去二月二日（第一土曜日）午後一時より麴町富士見町五丁目二十二番地富士見倶樂部に於て例會相開き講師醫學博士中濱東一郎及鈴木宗玄両君の講演有之此日來會者五十餘名午後四時半散會せり

●役員の御招待

去一月十日本會總裁　小松若宮御息所殿下には會長　副會長を始めとして役員一同を御館へ御招

待下され御鄭重なる御饗應に預かりたるが實に感佩の至に堪へさるなり

廣告

二月より三月に至る入會者左の如し

◉地方會員中野悅子の紹介により

新潟市上旭町通一番町四十五番地　通常會員　小野芳子

新潟市產婆養成所　仝　栗林せい子

◉會員加藤文子の紹介により

秋田縣羽後國平鹿郡横手町大町上町　贊成員　富田新助君

下澁谷日本赤十字社病院　小野はる子

◉地方會員土井榮子の紹介により

紀伊國尾鷲町三百六十番地　通常會員　土井つるの子

◉幹事濱田袷子の紹介により

神田淡路町二丁目九番地　通常會員　神田偲子

◉事務所へ申込により

廣嶋市下仲町博愛病院　通常會員　清水ふさ子

◉會員中村さく子の紹介により

第一醫院　岡野かく子

第一醫院　泉いな子

◉評議員鳩山春子の紹介により

牛込區市谷仲町五十二番地　通常會員　野口しき子

小石川區竹島町四十七番地　通常會員　横山みか子

◉通常會員原八重子の紹介により

麴町區永田町二丁目五十六番地　通常會員　吳琴子

轉居

京橋山城町四番地へ　荒巻つね子

麴町下六番町六十六番地へ　岡野いく子

神田北神保町十一番地へ　秋間たい子

麴町飯田町三丁目廿六番地へ　三井すて子

麴町元園町一丁目廿七番地へ　相原飛佐子

京橋南鍋町一丁目五地地へ　多田なを子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會規則

第一條　凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會することを得

第四條　會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條　本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條　男子にして本會の主義を贊成する者は之を贊成員とす尤も會費は本會員に同し

但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身贊成會員(無會費)とすると有る可し

第七條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條　本會は左の役員を置く　會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず

但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る

但幹事の分課を設けて　第一　會計　第二　編輯出版　第三　庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條　會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條　會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會は七月八月を除くの外每月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條　每會學識經驗ある者を聘し講義演說を囑し本會々員の演說と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し每月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

但し演說の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條　會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條　講義演說の際男子の傍聽を禁ず

但會員に緣故ある男子は此限にあらず

第十八條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

但些少の金額は日々の費用支出の爲め事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日內務省許可

務所に引出置を得

第十九條　會計の收支は總て會計課幹事の捺印を要す

第二十條　會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し

但不得止塲合には郵便券を代用するも妨けなし尤も一割增とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便券二錢を添ふ可し

第廿三條　每年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すとを得

第廿四條　每年三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍內に於て役員の評議を以て其細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條　本會の集會塲は時々報知する者とす

（以下次號）

婦人科小兒科診察

貧民無料懇篤施療す

宅診　午前
往診　午后

本鄉東竹町廿五番地

女醫　伴治子

齒科診察

從午前八時
至午后五時

日本橋區本町二丁目十二番地

女醫科齒　高橋孝子

明治廿八年二月廿八日印刷
明治廿八年三月一日發行

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　大日本私立婦人衛生會
編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎
印刷者　同　神田區小柳町十三番地　小高良造
印刷所　同　神田旅籠町貳丁目拾一番地　廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可　第一金曜日發行

（定價金拾錢）